

## 平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

## ◎取組分野：【食】【交流】

1. 都道府県、市町村	大分県豊後大野市
2. 団体名	温見地区連絡協議会
3. 取組みの名称	牛と椎茸と人づくりに生きる里山
4. 取組概要等	

## ◇概要

温見地区では山間地のため、零細な農業経営を余儀なくされていたが、地域の特長を生かした放牧による肉用牛の多頭化や椎茸栽培に取り組むことで農業振興を図ってきた。

平成15年に地域の拠点とも言える温見小学校が廃校になり、地域が衰退するという危機感が広がり、新山村振興等農林漁業特別対策事業を活用して「里の駅やすらぎ交差点」を設置し、さらに平成16年には地域を活性化するため「温見地区連絡協議会」が設立された。

平成17年からは地域の小中学校を対象とした食育を通じ、地域に貢献していこうという気運が高まり、地域の素晴らしさを伝える「農育」という活動を行っている。新たに設立された組織と昭和30年代に設立された農業生産組織とが連携をとり、集落内外でのむらづくり体制を形成している。

## ①温見地区連絡協議会

地区全員が参加した組織で、旧温見小学校跡地の管理、体育祭、盆踊り大会、春秋2回のスポーツ大会など、主に地域内の活性化に向けた取組みを行っている

## ②やすらぎ交差点協議会

「里の駅やすらぎ交差点」の運営母体で、地元住民の作った農産物や加工品の販売、レストランでの地元食材の食事提供を行っている。

## ③温見地区畜産振興会

地域内のクヌギ林への林間放牧を始めとし、共同牧野での放牧も取り入れ、肉用牛の多頭化で経営改善に取り組んでいる。平成18年畜産大賞地域畜産振興部門で優秀賞受賞、大分県農業賞で最優秀賞受賞という成果を納めている。

## ④椎茸振興会

自然条件を活かした椎茸生産に取り組み、林間放牧によって原木管理の手間が省ける分を椎茸管理にまわすことで、高品質の椎茸を生産している。全国乾椎茸品評会で毎年農林水産大臣賞等を受賞するなど、非常に高い評価を得ている。

## ⑤自治会（消防団）

メンバー大半は地区の若手畜産農家であり、消防操法競技全国大会で準優勝するなど高い技術を持っている。ここで培われた信頼関係が地域の活性化の原点になっている。

## ◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
里の駅 売上げ	22,483	28,854	30,195	33,864	33,317
解説	単位：千円				
里の駅 来客数	26,803	30,105	29,796	32,987	31,690
解説	単位：人 レジカウンター数				
里の駅 雇用者数	8	9	9	9	9
解説	単位：人 うち5名はパート従業員				
里の駅 イベント回数	3	3	4	4	4
解説	単位：回				
里の駅イベント 参加者	750	800	800	1,000	1,000
解説	単位：人				
地区 イベント回数	4	4	4	5	5
解説	単位：回				

項目	H15	H16	H17	H18	H19
地区イベント	300	300	300	600	600
参加者	解説 単位：人 平成18年から盆踊り開始				
肉用牛	890	893	858	845	830
頭数	解説 単位：頭 朝地町全体の頭数で、うち約80%が温見地区				
椎茸	57.8	64.3	53.6	53.9	56.0
生産量	解説 単位：トン 朝地町全体で生産量で、うち約65%が温見地区				

#### ◇活用している地域資源

- ・地域周辺に広がるクヌギ林（椎茸の原木、林間放牧）や地域内の共同牧野
- ・全国的に評価の高い原木産の乾椎茸（全国乾椎茸品評会トップレベルの生産者）
- ・朝地牛（肉用牛、農協の朝地肥育センターで育った朝地牛を食堂で提供）
- ・江戸時代の旧岡藩に献上していた錦田米
- ・廃校となった旧温見小学校跡地
- ・その他、地域内で生産される加工品や伝統芸能 等

#### ◇地域活性化のポイント

温見地区連絡協議会では地域内の活性化を図るため、これまでに行われていたイベントに加え、住民総参加の花火大会などを企画している。

やすらぎ交差点協議会では、地元の女性スタッフが料理の研究を重ね、地域食材を活かしたメニューを提供している。（朝地牛、椎茸、米を組み合わせた「よくばりコロッケ」は県外から買いに来る人がいるほどの人気商品）

地区内の多くの農家は畜産と椎茸の複合経営を行っており、肉用牛の多頭化と高品質椎茸栽培を両立させるため、林間放牧に取組み好成績を収めている。

肉用牛生産においては、生産者の高齢化に対応するため、平成8年に結成した「ヘルパー組合」による支援活動が活発化している。

平成4年に地域内に新規の団地を造成し、23戸が入植してきた。新たに住民となった、人々も地域内の組織やイベントに参画するようになり、農林業者との交流も盛んに行われている。

#### ◇事業の今後の展開方向

今後は、原油高騰等の影響で厳しさを増す畜産経営や椎茸生産をこれまでの農業に見られる「守り」に姿勢から、温見地区連絡協議会や「やすらぎ交差点」の活動を通して「攻め」の姿勢へと転換を図りたいと考えている。

また、これまで積み重ねてきた温見地区連絡協議会と「やすらぎ交差点」の活動を、都市との交流の面で強化を図り、生産者と消費者との連携強めることでさらに幅広いものにしていきたいと考えている。

特に「やすらぎ交差点」については、新メニューの「原木どんこ寿司」が平成20年度にきこの料理コンクール全国大会で林野庁長官賞受賞したことも活用し、竹田市久住及び直入地域の観光事業と連携を図りながら、広域的な視野に立った事業展開を進めていきたい。

